

池田高校 SSH 卒業生インタビュー
高校22期生 Fさん

(聞き手 英語科 葛原)

1 まず、あなたは今どのようなお仕事(生活)をされていますか。仕事の場合は、よろしければお立場もお教えてください。

現在は玩具メーカーに勤務し、マーケティング部門に配属されている。

2 高校時代はどういう研究をされましたか。

科学思考班①に所属し、錯視の研究を行っていた。コマを回すと止まっている時には見えなかった色が見える。それがなぜなのか、どのような条件下で、そのように見えるのかという研究を行っていた。

3 研究活動の上で、最も印象深かったことは何ですか。

10年以上前だから、記憶は薄いですが、毎日いろいろ細かく条件を変えてやっていたのが、印象に残っている。時には、昼食を取りながら、意見交換をし、皆で協力して研究しているという日常が今となってはとても良き思い出として残っている。

4 そこで学んだことはどういうことだと考えますか。

答えが見えないことでも、なんでも繰り返し、思考錯誤して、ちょっとした変化が見られた。それが楽しさにつながった。可能性が見えてくると研究しがいがあった。チームで動いて、協力しながら、昼食をとりながら、ふとした会話から生まれるものがあった。それが現在の仕事にも生きている。今現在のクリエイティブな仕事でも、右脳(直感的な思考)と左脳(論理的な思考)を一緒に動かすことが求められている。今思うと、高校時代の課題研究は現在の仕事につながる部分があったと思う。

5 SSHの学びにより、科学的な感性や好奇心、思考力は伸びたと思われますか。

はい。虹も、だまし絵も錯視の一種だと思う。それがなぜそのように見えるのか。好奇心や疑問を持つようになった。SSHによって、こういう仕組みだからこののかなと常日頃から考えるようになった。

6 プレゼンテーションやわかりやすく話す力や表現力は付いたと思いますか。

はい。プレゼンすることは、発表内容を知らない人にしないとイケない。それでは、どのようにすれば分かりやすくなるのか、スライド作成、話し方に注意を払っていた。これはSSHで鍛えられたと思う。

7 高校時代が普通の教科学習だけで終わったとしたら、どう違ったと思いますか。

これはなんでなんだろうと常に物事に疑問を持つようになった。これはSSHのおかげだと思う。普通科だけの教科学習だけでは、このような疑問を持たなかったかもしれない。

8 SSHの学びは、あなたの進路選択に影響しましたか。また、研究したことで学習意欲は高くなったと思いますか。

学習意欲は高まった。勉強することも、ただ学ぶのではなく、これってなんでなんだろうと疑問を持つことが増えた。これが学習意欲につながったと思う。

9 現在どのような生活を送っていますか。研究(仕事)はどんな様子ですか。今の自分に役立っているところはどんなところと考えますか。

今の生活で言うと、広告やマーケティングは数字を取り扱う。これはSSHでも同様だった。一方、子供がおもちゃを使って楽しいと思えるためには、論理的な考え方に加えて、ひらめきが必要である。煮詰まったときにはチームで協力しながら、雑談しながらアイデアを集う。これは高校時代のSSHで身につけた方法だと本当に思う。

10 今後の池田高校のSSHについてどう考えますか。期待することなどを教えてほしい。

役に立たない研究をしてもらいたい。私の仕事でいうと、おもちゃは生活必需品ではないけど、娯楽は楽しいし、人々の生活を豊かにしてくれると思って仕事をしている。役に立たないかもという理由で、やりたい研究をやめてほしくない。